

令和3年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第4号 (果樹)

令和3年7月16日発表 (対象期間 令和3年7月16日～8月上旬)

●PCでアクセス

広島県 ひろしま農業情報

検索

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/nougijutsu/>

※次回の予報発表は令和3年8月上旬ごろです。

●スマホでアクセス

ひろしま農業情報 QRコード →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151 東広島市八本松町原6869
電話：082-420-9662 (直通)

1- (1)

かんきつ病害虫の現況と予報 (概要)

病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項
かいよう病	ネーブル：少 レモン：並	ネーブル：少 レモン：並	●台風等の強風雨前防除を徹底する。 ●伝染源となる罹病葉，果実，枝は速やかに除去し，ほ場外に持ち出す。 ●ミカンハモグリガ食害痕から感染しやすいので，食害された夏秋梢は切除する。
黒点病	ウンシュウ：並 ネーブル：並 レモン：やや多	ウンシュウ：並 ネーブル：並 レモン：やや多	●樹除の枯れ枝及び園内の剪定枝は伝染源となるため，速やかに除去し，ほ場外に持ち出す。
そうか病	並 ※一部で発生	並	●発病した葉，枝，果実は伝染源となるため，速やかに除去し，ほ場外に持ち出す。
ミカンハダニ	少	やや少	●8月以降に発生すると果実品質を損なうので，基幹防除を徹底する。
カイガラムシ類	並 ※一部でナシマルカイガラムシが発生	並	●発生が見られるほ場では，第2世代幼虫発生盛期の8月上中旬までに防除を行う。
ミカンサビダニ	少	やや少	●被害を確認してからの防除では遅いため，基幹防除を徹底する。

【表の見方について】

「現況」「予報」は，「多，やや多，並，やや少，少」の5階級に区分しています。区分は，原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ，相対比較しています。

- 「多」：1番目（最多年）と同程度以上
- 「やや多」：2～3番目と同程度
- 「並」：4～7番目と同程度
- 「やや少」：8～9番目と同程度
- 「少」：10番目（最少年）と同程度以下

①かいよう病	現況	ネーブル：少 レモン：並	予報	ネーブル：少 レモン：並
--------	----	-----------------	----	-----------------

予報の根拠	(+) : 多発要因 (±) : 平年並み (-) : 少発要因
-------	----------------------------------

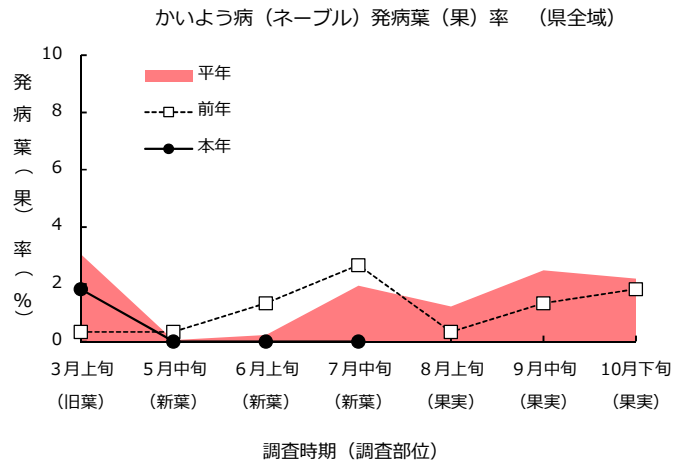
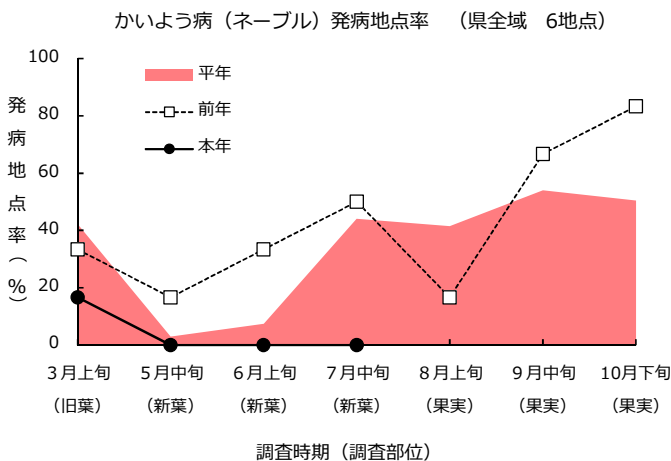
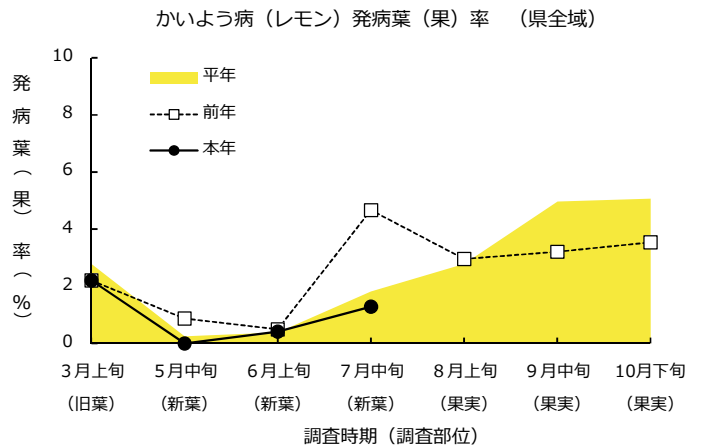
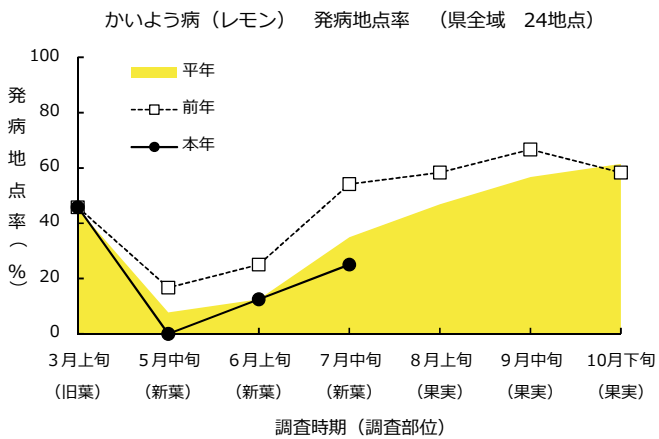
- 巡回調査では、ネーブルの発生は無し、レモンでは平年並みの発生であった(±)。
- 向こう1か月の気温、降水量、日照時間とも平年並みである確率が40%である(±)。



【防除上の注意事項】

- ネーブル、レモン、「はるみ」などの品種は発病しやすいので注意する。
- 銅剤散布に当たっての注意事項
 - ・マンネブ剤、マンゼブ剤とは混用せずに散布し、これらの剤との散布間隔は7日以上空ける。
 - ・無機銅剤(コサイドなど)の散布を行う際には、クレフノン(希釈倍数：200倍)を加用する。
 - ・高温時の散布を行うと薬害を生じやすいので注意する。

【巡回調査データ】



②黒点病		現況	ウンシュウ：並 ネーブル：並 レモン：やや多	予報	ウンシュウ：並 ネーブル：並 レモン：やや多
予報の根拠	(+) : 多発要因 (±) : 平年並み (-) : 少発要因				
<p>●巡回調査では、ウンシュウおよびネーブルでは平年並みの発生、レモンではやや多い発生であった(±)。 ●向こう1か月の気温、降水量、日照時間とも平年並みである確率が40%である(±)。</p>					

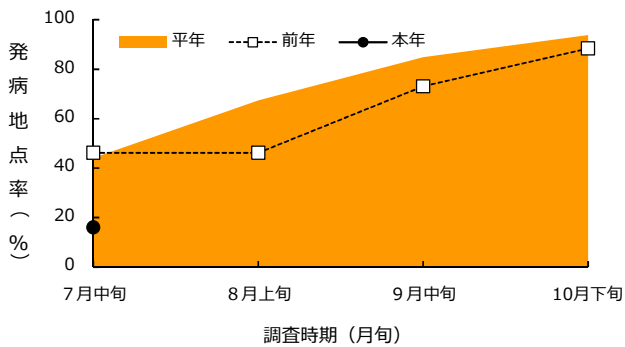


【防除上の注意事項】

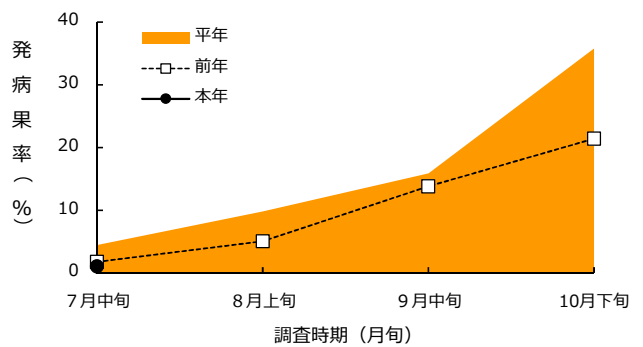
- 防除間隔は長くても1ヶ月以内とし、前回防除以降、累積降水量が250mmを超えたら追加防除を行う。

【巡回調査データ】

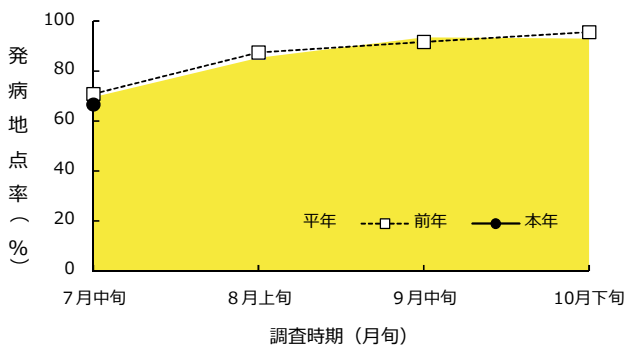
黒点病（ウンシュウ） 発病地点率（県全域 25地点）



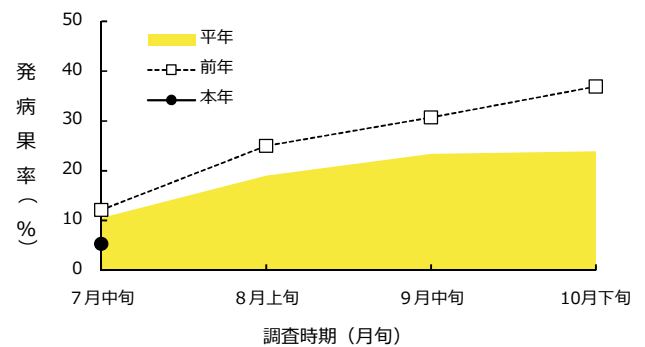
黒点病（ウンシュウ） 発病果率（県全域）



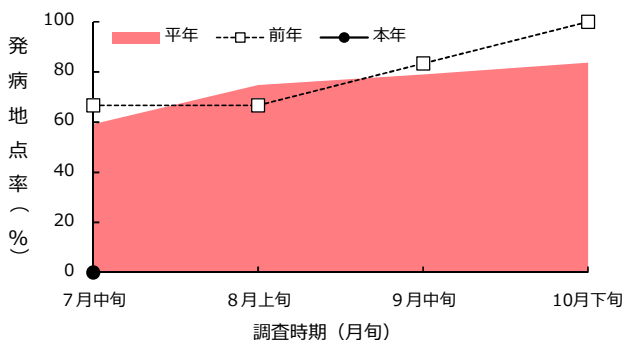
黒点病（レモン） 発病地点率（県全域 24地点）



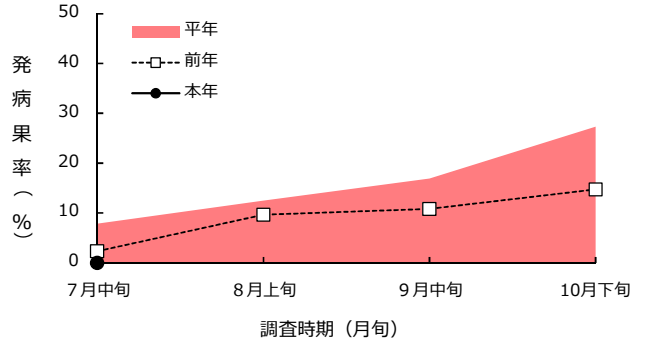
黒点病（レモン） 発病果率（県全域）



黒点病（ネーブル） 発病地点率（県全域 6地点）



黒点病（ネーブル） 発病果率（県全域）



③ミカンハダニ

現況

少

予報

やや少

予報の根拠

(+) : 多発要因 (±) : 平年並み (-) : 少発要因

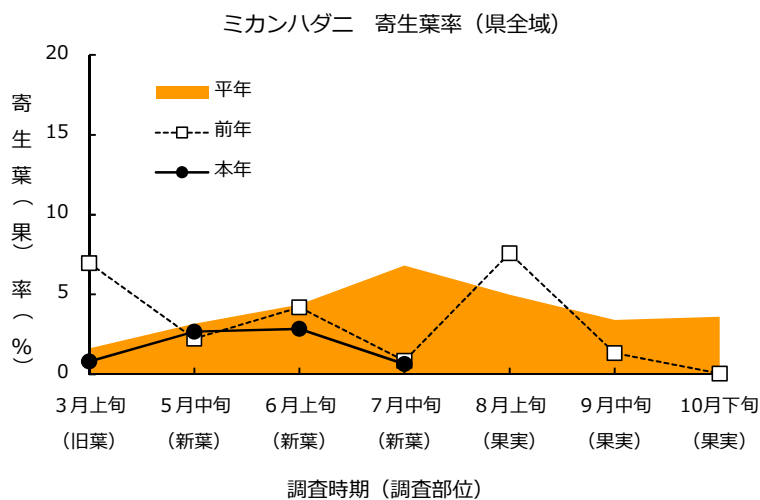
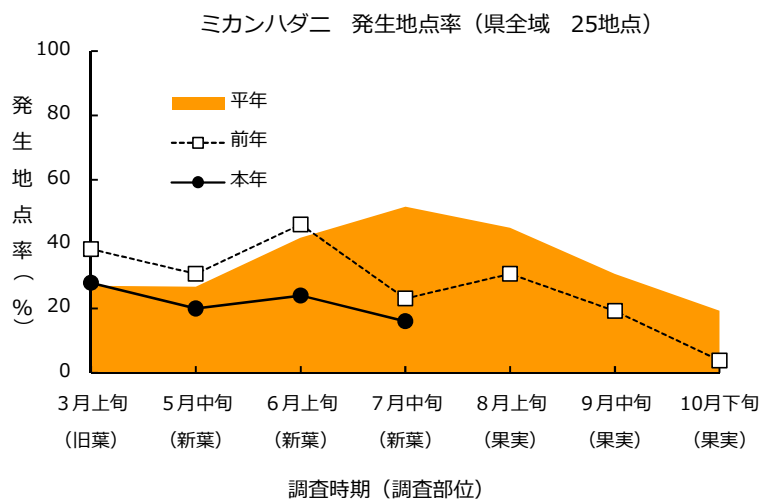
- 巡回調査では、発生は少なかった。
- 向こう1か月の気温、降水量、日照時間とも平年並みである確率が40%である(+)。



【防除上の注意事項】

- 抵抗性個体の出現を防ぐため、同系統の薬剤の連用は避ける。
- 薬剤が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。

【巡回調査データ】



①チャノキイロアザミウマ

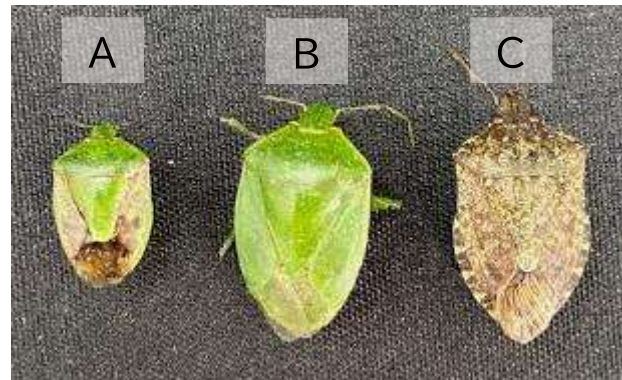


チャノキイロアザミウマは、様々な果樹に寄生して主に果皮を加害し、果実の外観を著しく損なう。体長約0.8mmと非常に小さいアザミウマであるため、発生に気付くのが遅れやすい。広島県東部の生口島アメダスデータの気温推移から予測した発生ピーク日(表1)を参考に、発生ピーク予測日の7日前～ピーク当日に防除を行う。

表1. チャノキイロアザミウマ成虫発生ピーク予測日

今後の気温	発生ピーク予測日		
	第4世代	第5世代	第6世代
平年より高い (+1℃)	7月27日	8月12日	8月29日
平年並	7月28日	8月14日	9月 1日
平年より低い (-1℃)	7月28日	8月16日	9月 4日

②果樹カメムシ類



A : チャバネアオカメムシ
B : ツヤアオカメムシ
C : クサギカメムシ

広島県内におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの累積誘殺数は、7月第2半旬の時点で県内全域において「並」以下となっている。今後、気温の上昇に伴い飛来が増加する可能性があるため、ほ場内の見回りを定期的に行い、飛来が認められた場合は速やかに防除を実施する。

表2. 各調査地点におけるチャバネアオカメムシ累積誘殺数(5月第1半旬～7月第2半旬)

設置地点	チャバネアオカメムシ累積誘殺数(頭)				
	本年	現況	平年 ^{※1}	多発年 ^{※2}	多発年以外 ^{※3}
東広島市安芸津町	51.0	少	354.2	553.5	268.9
福山市神辺町	124.8	並 ^{※4}	84.5	118.4	69.9
世羅郡世羅町	226.0	並	175.5	333.1	130.4
庄原市東城町	7.0	少	38.8	64.4	27.9
庄原市高野町	30.0	並	53.8	126.3	19.2

※1 各調査地点の平年とは、過去10年の平均を示す

※2 多発年とは、注意報を発表した年(平成24, 26, 令和2年)の平均値を示す

※3 多発年以外とは、平成23年以降で、平成24, 26, 令和2年を除いた年の平均値を示す

※4 過去10年間で4番目の数値であるため「並」と判定したが、平年、多発年より多い数値であるので注意する

【中国地方1か月予報】

(広島地方気象台7月15日発表, 7月16日から8月16日までの天候見通し)

- ・天気は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・向こう1か月の平均気温, 降水量および日照量ともに, 平年並みである確率が40%です(図1)。
- ・週別の気温は, 平年並みである確率が1週目, 2週目ともに50%です。3~4週目は, 高い確率が40%です(図2)。

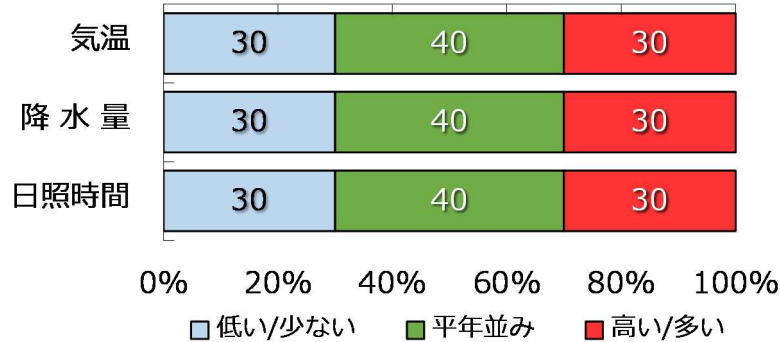


図1. 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率 (%)

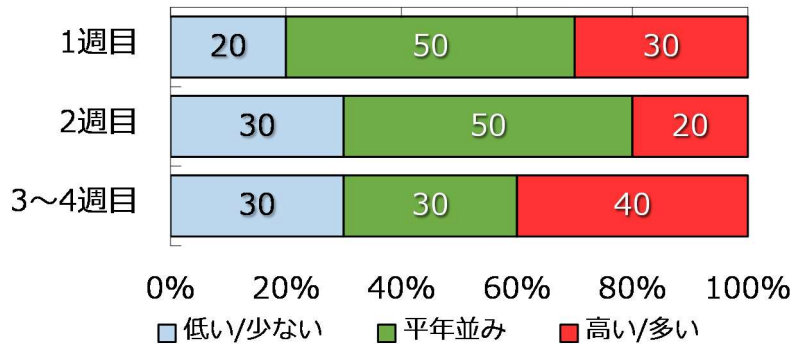


図2. 向こう1か月の気温経過の各階級の確率 (%)

広島県では, 農薬による危害の未然防止を図るため, 6月1日から8月31日までの3ヶ月間を農薬危害防止の重点期間と定め, 農薬販売者及び農薬使用者に対する関係法令等の周知や農薬の適正販売, 適正使用及び保管管理のさらなる周知・徹底を図ることとしています。

- スマホでアクセス
農薬危害防止運動に関する情報 QRコード→

